

## 岩生成一著「南洋日本町の研究」に對する授賞審査要旨

本書は六章より成る。第一章序論に於ては、日本人南洋發展の高潮期に於ける御朱印船渡航貿易躍進の情勢を概観し、更に其船に便乗して南洋に進出したる日本人の概數を推計し、彼等の身分職業・雇傭關係等の諸點より、南洋各地に於ける分布状態を考へ、日本人の南洋進出の一般的事情を明かにせり。第二章以下第五、五章に於ては、先づ交趾・柬埔寨・暹羅・呂宋に於ける七箇所の日本町について、夫々其發生過程・其位置・其規模及び戸口數を考定せり。七箇所の日本町の中交趾のツーランとフェオ及び暹羅のアユチャの日本町については、既に先人の研究せしもの若干これあるも、著者は更に各方面の既刊未刊の新史料によりて其位置と發達とを確め、其戸口數を推計し、他の四箇所の日本町即ち柬埔寨のピニヤールとブノンペン及び呂宋のサンミゲルとデイラオの日本町については新に其位置を考定し、其戸口數を推計し、此等七箇所の日本町が總計少くも五千以上の人口を擁したりしことを明かにせり。次に各日本町が當該政府より許されたる自治制の内容を明かにし、其自治制を運用したる主腦人物の閱歷・行動を考察し、また各日本町の在住民の軍事・宗教・經濟方面に於ける活動を述べ、軍事上にありては、比較的少數の日本人が、常に重要な役割を果し、宗教上にありては多數の切支丹信徒が江戸幕府の取締を避けて移住し活動したることを詳にし、經濟上にありては、御朱印船の渡航先に於ける交易の實情を明かにし、之と緊密なる關係にある在住日本人が、其

地方の經濟界に優越せる情況を述べたり。最後の結論の章は、以上の敘述を綜合して、日本町の名稱と日本町の特質とを明かにし、其凋落の原因を検討したるものにして、日本町の名稱については、此等日本人の集團部落が當時特に「日本町」と稱する特定の稱呼を有したることを、日本側九例、外國側二十六例によつて立證し、其住民が浪人者・追放切支丹信徒・貿易關係商人及び其家族並に在在地政府又は外人雇傭員なりしこと、其戸口の概數は元和・寛永年間、最盛期に於て呂宋日本町三千人、暹羅日本町千五百人、柬埔寨日本町三百五十人、交趾日本町三百人なりし事、また此等の日本町が御朱印船・諸外國船就中日支貿易の杜絶を打開する爲め、日支兩國船の出合貿易の爲め、特に重要な役割を果したること等を擧げたり。斯くの如くにして、元和・寛永年間を頂點として一時は南洋各地に榮えたる日本町も、其後六七十年にして全く衰滅するに至りしが、其原因としては、本國の鎖國により人員物資の補充杜絶して、積極的發展の困難なりしこと、婦人移民數の僅少なりしこと、移民に永住的傾向の少かりしこと、政府が獎勵後援をなさず全く自然に放任せしこと、移民が在在地に於て政變等の紛争に加擔する機會多く、自滅を早めたりしこと、移民が土着民の生活に密着したる國內産業に従事する迄に至らざりしこと等を擧げ、更に自然的無統制の日本人の發展に對し、組織的統制ある西洋人の發展と、數に於て絶對的に多く、而も生活力の旺盛なる華僑との競争によりて、遂に衰頹の已むを得ざるに至りし所以を述べたり。

以上を本書の梗概とす。從來この種の問題については、内外人の間に、若干研究の發表せられたるものあ

れども、何れも小篇に過ぎず、且つ史料の捜査十分ならず。著者は十數年來この研究に従事し、二度南洋に渡りて日本人活動の遺蹟を踏査し、史料を蒐集し、更に蘭・英・西・葡等の諸國を巡歴して、各地の圖書館・文書館に藏せる未刊の報告書・航海記等を採訪して、この研究を進め、遂に克く之を大成することを得たり。但其行文表現に於て、稍洗鍊を缺き、また各日本町の盛衰を述ぶるについて、何れも四節を設け、強ひて之を同型に入れたるの嫌あるを免れず。或はまた暹羅の官爵名など特殊稱呼の説明を缺きたる等、多少遺憾の點なきに非ずと雖も、著者が博く史料を探求涉獵し、斷片的材料を綜合して、先人未發の事實を究明したるの功は頗る稱すべく、其業績顯著にして以て推獎するに足るものなり。